

鮭から見える

食べるだけじゃ
もったいないじゃない！

— 第4回 — いわての海

身近だけれど意外に知らない「鮭」のあれこれを学ぶ全5回の連続講座です。第4回目のテーマは、、

東北におけるサケ漁具

現在、岩手県では川を遡上するサケは「ウライ」と呼ばれる川に作った仕切りで捕獲されています。東北全体では河口で行われるものから、遡上中のサケや、産卵場で群れるサケを狙ったものまで様々な形態が見られ、川幅や水量、地形などによる地域差もあります。本講座では、東北における漁具から見たサケ漁の多様性について学びます。



【講師】

こだに りゅうすけ
小谷 竜介 氏

東北歴史博物館
主任研究員

東京大学大気海洋研究所
客員准教授

開催日

2020年2月29日(土)

13時30分～14時30分

場所

岩手県立図書館

4階 ミニシアター

定員

60名<受講無料>

申込受付

1月10日(金)より

・カウンター、またはお電話で

・電話：019-606-1730

【企画協力】

海と希望の学校 in 三陸 盛岡分校、東京大学大気海洋研究所 国際沿岸海洋研究センター

【後援】

岩手日報社、岩手県農林水産部水産振興課、エフエム岩手、盛岡市

鮭から見える

食べるだけじゃない！
もったいないじゃない！

いわての海

豊かな漁場に恵まれた岩手県沿岸部では、沿岸漁業や地形を活かした養殖業が盛んに行われています。中でも「鮭」は岩手県にとって重要な産物で、漁獲量は北海道に次ぎ全国第2位、日常生活においても旬になると“秋味”の名称とともによく目にします。春先には稚魚の放流がニュースで採り上げられ、県のシンボル魚が「南部さけ」となっていることから、居住地が沿岸であると内陸であることを問わず、県民一般にとって親しみ深い魚であると言えます。

しかし一方で、鮭について学ぶ機会はそれほど多くなく、その生態や歴史的、文化的な背景などについて知る人は、それほど多くないのではないのでしょうか？

この講座は、川と海とを生活圏とし、わたしたちにとって身近な魚である「鮭」をテーマに、“身近だけれど意外に知らない「鮭」のあれこれ”を学ぶ連続講座です。

この機会にぜひ、鮭について一緒に学びましょう！

第5回目：2020年3月7日（土）開催

【テーマ】「さけの赤ちゃん放流会」の27年

《申込受付開始：2月1日（土）より》